一般社団法人
環境文化フォーラム
2023年5月1日発行
発行責任者：
(一社)環境文化フォーラム
理事長　宮城成和
編集責任者　竜王真紀

①特製の網で琵琶湖の水を採取
②一瀬諭先生の講義
③顕微鏡に映るプランクトンを
食い入るように見る子ども

環境学習セミナーVOL3

4 質の高い教育をみんなに　6 安全な水とトイレを世界中に　14 海の豊かさを守ろう

プランクトンからびわ湖を考える

春の水生プランクトンワークショップを北山田漁港内の漁業協同組合で開催しました！

環境文化フォーラムの堀野理事の「びわ湖の環境問題の現状と今後の課題」の話の後、びわ湖のプランクトンを45年以上研究されている一瀬諭先生に「プランクトンとは？」の話を聞いた後、実際に漁港でプランクトン採取の実演もして頂きました。

今回参加された皆さんは自然環境にとっても興味を持っておられ、ワークショップに参加されたことによって、びわ湖の水環境とプランクトンの関わりについてより理解を深められたと思います。また、一瀬先生の参加者の皆さんへの問いかけが、とっても親しみやすく、楽しんでプランクトン観察をされておられました。

特に、子どもたちがとっても楽しそうで、小学校低学年ではありましたが、プランクトンに関して素晴らしい理解力を持っている参加者もおられ、今後の活躍がとっても楽しみであると思いました。（堀野）

参加者の声・感想

沢山のプランクトンを見る事ができて、とても子どもの目が輝いていました。これを機にプランクトンと琵琶湖についてもっと学びを深めていけたら良いと思います

一瀬先生のお話大変興味深く面白かったです。

瀬田川と北山田港で生息しているプランクトンを実際に見ることができて大変よかったです。

学校で子どもたちにプランクトンについて、今日、学んだことを伝えられればと思う。

私はプロの研究者にはなれないが、琵琶湖博物館でもっともっとプランクトン、特に珪藻を勉強研究したいと強く思わされました。子供たちに負けないよう頑張りたい。

細かなスケッチをする
プランクトン大好き小1年生

躍動するコミュニティスクール

高穂中のふるさと学習「たかほ学」

高穂中学校では、生徒が主体的に社会参加する中で様々な力を獲得する『たかほ学』がスタートしました。1年生は、「ふるさと学習」を通して自分たちとのつながりを紐解き、豊かな草津市を探究します。エコスタイルプラザ（受託：環境文化フォーラム）は、高穂中学校1年生の「自然環境」グループ（約60人）を支援しています。

①9月26日（月）は、教室で草津の自然を概観し、鳥の目・虫の目・人の目で環境を見る見方について考えました。
②10月24日（月）は、ロクハ公園でフィールドワークを行い、植物、生物、水質、景観などを調査しました。ロクハ公園の観察指導員の野田譲先生に観察指導していただきました。
③1月20日（金）は、中学校体育館で「たかほSDgsサミット」が行われ、1年生のふるさと学習の発表を聞かせていただきました。
④2月24日（金）、生徒が学校近くの保育園（2園）へ出向き、生徒が考えた自然環境ゲームを園児に楽しんでもらう幼中交流会を見学させていただきました。

生徒が身近な自然を通して草津の宝を発見し、体験したことを自分化して様々なカタチで伝えようとする探究学習は、「主体的・対話的で深い学び」を具現化するものです。この様子は、生徒の学びの姿勢と目の輝きから伝わってきました。作田校長先生の指導力と先生方の学びの構想に躍動感を感じる高穂中学校の「たかほ学」の実践は、探究学習やESD・SDGs学校版モデルとも言えます。（井阪）

㋑教室での座学を受け持ちました。
㋒「葉っぱハガキ」や生徒が考えた自然環境ゲームを園児に教えている様子

草津こども環境会議 壁新聞見学会

講評1

今年の壁新聞の展示は、小学校1年から6年まで幅広い年齢層で、びわ湖学習、「やまのこ」体験、障害者支援等、広範囲にわたる学習や活動が紹介されていました。こどもたちが真剣に取り組み、力を込めて書いた文章が多く見られ、「壁新聞」を見て下さった参加者の心を打ったと思います。
しかし、近年の新型コロナの影響でしょうか、ホームページを閲覧するなどの調べ学習をした内容が多く見られました。
私は、環境学習について、1）こどもたちが意欲をもって参加できる体験学習の場を設定し、自然の事物・現象に接し、人間社会の今日の姿を観る工夫をすること、2）実験・観察などの直接経験をできるだけ多く取り入れ、探求的な態度を育てるとともに、科学的な見方・考え方を養うこと、3）楽しく継続的にできる学習をめざすこと、が重要だと思っています。
さらに、指導者（先生）が、子どもたちの活動の背景（例えば、授業にゲストを招聘した場合、いつ、誰から、どのようなテーマ・内容について話を聞いた）について、簡潔に壁新聞に書いてもらえると一層こどもたちの感想文やまとめが活きてくると思います。
来年のこども環境会議の「壁新聞」には、こどもたちの体験に基づいた感想・意見・提言が多くの記事に見られることを期待しています。
（一社）環境文化フォーラム顧問　川嶋宗継

2023年
2月11日

講評2

㋑㋒川嶋顧問とともに、
力作の壁新聞を見て回る様子

「壁新聞」展示では、多くの参加がありました。コロナ禍にあって体験活動が十分できていない中、こどもたちが生き生きと活動している様子が伝わってくる内容もたくさんありました。
「こども環境会議」は子どもたちの活動を「称える」「交流する」「つながる」ことがポイントです。また、子どもたちの活動を発表・評価する場であります。来年度は、ぜひ子どもたちの活動を大人の立場で支援できる内容となるよう期待したいと思います。
（一社）環境文化フォーラム　理事長　宮城成和

賛助会員：株式会社　がんさん　　株式会社　スペース工房　　日本シン・光源株式会社